

ICN (感染管理認定看護師) とは

感染管理認定看護師 (以下「ICN」という) とは、どのような役割なのかについて紹介します。

ICN は、看護師となり 5 年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める一定時間の認定看護師教育 (感染症、感染対策などの専門知識) を修め、認定看護師審査に合格することで、その資格を得ます。

現在、医療は医療機関のみで完結するものではなく、地域の福祉施設や訪問診療、訪問看護など、地域と医療機関で提供されており、感染管理認定看護師も地域の医療機関の相談を受けたり、高齢者福祉施設へ訪問したり、保健所と協力して活動しています。

ICN の施設訪問の実際

ある特養で新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生し、コロナ陽性の利用者と職員が複数のフロアから確認されたが、職員の人事異動があったばかりで、感染対応に不慣れな職員が多い。また複数の職員に発熱や咽頭痛等の症状があったため、保健所と ICN が一緒に施設へ訪問し、対応について相談した。

【施設の状況・疑問】

- PPE の着脱手順が職員によって違う、手順に迷う。
- 感染が心配だから、職員が常にガウン、手袋を着用している。
- 陽性の利用者が療養する部屋が点在している。どうしたらいいか。
- PPE やオムツ等物品の置き場に、物が多く、雑然としている。



【ICN のアドバイス・対応】

- 具体的な PPE 着脱手順を実演した。(施設が手順の実演を撮影し、不在の職員にも周知した)
- ケアの場面に応じ、正しい PPE の選択、使用方法についてアドバイスした。(オムツ交換、食事介助、口腔ケア等の具体的な場面を提示しアドバイス)
- ゾーニングについて、一緒に考えた。
- 清潔、不潔を押さえた上で、物品の整理などについてアドバイスした。



最新情報を交えながら、施設の状況に合わせて感染対策の具体的な方針を提案するなどのアドバイスを行っています。

地域の医療機関との連携

高齢者福祉施設と医療機関との連携の必要性 (ICN の立場より)

高齢社会となって久しい現在、高齢者福祉施設と医療機関との関係は密接な関係にあります。利用者 (患者) が安全に療養 (受療) できるよう、医療機関と高齢者福祉施設とが互いの役割や特徴を活かすことが大切だと考えています。

高齢者施設⇔医療機関において利用者 (患者) が移動する際に、「感染症に関する情報」や「処置 / ケアが必要な状況であるかという情報」は感染対策を行う上で非常に大切です。医療機関、施設においても感染拡大の防止につながりますので、相互に必要な処置・ケアの情報を共有できると良いでしょう。

★共有したい感染症情報★

医療機関⇒施設

薬剤耐性菌の保菌または感染の有無 検出部位など 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルスなどの罹患 (疑い)、または接触、院内でのクラスター発生の有無など
※病院から施設に退院する際には、感染症の情報提供と対応方法をお伝えしています。利用者 (患者) が安心して生活でき、職員も安心して介護ができると思います。

施設⇒医療機関

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなどの診断がついている感染症の罹患、接触、施設内での発生状況、感染症の診断がついていない発熱、咳、痰、下痢、嘔吐、掻痒感などの症状、以前の医療機関からの情報による薬剤耐性菌の検出情報など
※施設から病院に入院するときには感染症に関する情報、施設でのケア内容、上記症状の有無の共有をお願いします。

ここでポイント

薬剤耐性菌の種類が増えており、医療機関の検査結果でアルファベットの連なりや略語を情報提供されてもどのような対応をとるのかわかりにくいこともあるかと思います。そのような時に重要となるのはまず標準予防策を確実に実施すること、そして医療機関と適切な対応について話し合うことです。

ICN からのメッセージ

新型コロナウイルス感染症の流行により、感染対策への意識が高まり、また地域の医療機関と高齢者福祉施設の行き来も多かったことから「連携」の重要性を改めて感じました。

感染症に関する情報を医療機関と福祉施設で共有し、最適な療養環境で過ごせるように相互で情報共有できるように関係性を強めていきましょう。



衛生的な物品管理のコツ

次亜塩素酸ナトリウムは無敵ではありません！

広範囲の微生物に対し殺菌効果があり、低残留性（蛋白質と反応して食塩になる）という長所を持つ次亜塩素酸ナトリウムですが、使用の際は注意が必要です。

1 効果的に消毒しましょう

血液や吐物、石けん類の存在により、消毒の効果が低下するので、消毒前に十分な洗浄を行い有機物を取り除くことが重要です。

2 消毒薬の保管方法や使用期限に注意しましょう

直射日光や温度の上昇で分解が進み、濃度の低下が起こりやすいので、希釈した消毒薬は暗所で保管し、その日のうちに使用しましょう。

3 浸漬消毒時のポイント

- 適切な濃度の溶液ですか？
- 消毒に必要な時間を守っていますか？
- 器材が完全に浸漬されていますか？
- 浸漬容器は遮光で蓋つきのものを使用していますか？
(蓋つき容器は消毒液の蒸発防止にもなります)
- 十分な換気を行っていますか？

濃度と時間の目安
0.01% 60分以上
0.1% 30分以上

よくある質問

Q. 次亜塩素酸ナトリウム消毒液は噴霧して使ってもよいですか？
A. 床や壁等への散布などは、直接的な粘膜刺激だけでなく、徐々に発生する塩素ガスにより室内の金属器具・精密機器、流し台などに腐食を起こすことがあるのでやめましょう。清拭消毒が基本です。

よくあるNG例

- ✗ バケツの中でブカブカ浮かんで、全体が消毒液に浸かっていない。
- ✗ 容器の外側や上部が、消毒液に触れていない。



リネンもいろいろ運びます！

使用後のリネンは、目に見える汚染がなくても落屑やほこりの中に菌が存在します。

1 使用後のリネンの取扱いに注意しましょう。

- 使用後のリネンを取り扱う際には、マスク、手袋、ビニールエプロンを着用し、利用者さんごとに手袋を交換し、手指衛生を行いましょう。
- 体液や血液で汚染されたリネンを取り扱った場合は、エプロンも交換しましょう。
- 使用後のリネンは周囲に汚染を広げないために、振り払ったり、床に置いたりしないようにしましょう。
- 持ち運びの際は、身体に密着させないように意識することも大切です。

2 清潔リネンを保管、運搬するときに気をつけたいポイント

- 運搬カートや保管場所は使用後のリネンと混ざらないよう明確に区別します。
- 埃が付かないようカバーをかけた運搬車や扉の付いた保管庫で管理します。
- 埃が舞いやすい場所・人通りの多い場所・水回りなどに置きっぱなしにしないようにしましょう。

水回りの環境を整えましょう！

水回りはいつも湿っていて、微生物汚染が発生しやすい環境です。

1 シンク周囲には不必要なものを置かないようにしましょう。

- 水分を拭き取りやすく、乾燥しやすい状態にします。濡れた手でアクセスするペーパーホルダーや液体石けんも水のたまりにくい場所を選んで設置します。

2 清潔なものの保管に注意しましょう。

- 歯ブラシなどのケア物品の洗浄は患者毎に行い、水分を取り除いた後、他人の物品と接触することのないように管理しましょう。
- 汚物処理室は清潔な物品と汚染物を取り扱うため、ゾーニングを行い、清潔と不潔が混ざらないように注意しましょう。

よくある質問 Q. 歯ブラシを一齐に消毒するには？
A. 一齐に消毒はしないでください。利用者ごとに水洗いし、個別に管理しましょう。

3 汚物槽の周辺は水はねによる再汚染のリスクがあるので注意しましょう。

- 汚物槽の周辺には、消毒した尿器や便器を置かないようにしましょう。汚物槽から半径 1.5m 以内は注意が必要です。

よくあるNG例

- ✗ 汚物処理室のシンク周りに速乾性手指消毒剤と一緒に置かれてる。また洗浄後の器材が置かれており、水はねにより再汚染するリスクがある。

